

わかってきたこと

- 一つのトライアルの中で，勾配の異なる区間毎に，大きく変化する指標が代わり，特に，筋活動にはその開始期に変化が見られる．
- トライアル数を重ねるにつれて，筋活動には筋疲労の特徴が見られる．
- 運動と休息の違いが心拍変動の解析からは，十分に捉えて取れていない（運動直後に休息時の情報を計測した為？）．

わかってきたこと（詳細）

•phase-1

運動の開始の時点で勾配を見て次の運動を予測する可能性があり、それが筋電図等の生体信号の特徴の違いとなって現れているようだ？

•phase-2

坂の下りのときに心拍変動成分に変化が見えた（スピードとの関連性？）

•phase-3,4

上り坂．相関関数より筋疲労の傾向が見える。

•phase-4

坂の勾配が最も厳しい．主成分分析で、第1固有ベクトルにMPFが大きく関与（筋疲労の特徴）

•phase-5

坂を登り終えた後の下り坂の心拍変動に注意．

積み残し

- 筋活動の解析をすべてのストロークで実施する．
- 勾配の異なる区間を明確に決定する．
- 筋活動や心拍変動の解析で使用するスペクトル解析の手法を他の方式でも行う．
- 生体からの情報とPASの情報との関係を見るための計測装置の改良．
- 実験プロトコルの改良（目的に応じた対応）